

ナイス福岡 会報

自然感

くすのき

yumi

2026年02月

第367

号



○ 寒い寒いこの季節。川面には、冬鳥たちが集っています。でも、そんな川近くの

日当たりのよい土手などには、いち早く春の訪が。 aiko.

都市公園で自然観察会 県立春日公園での自然観察会(168回)

日時：2026年02月21日(土)10時から12時まで

集合場所：公園の中央付近にある自然あそび館

春日公園冬芽(シナマンサク)2026年2/3 撮影:田字草

「問い合わせ先」 担当: 田村耕作 Tel 090-8220-6160(田村)

参加費 会員200円 一般 300円 生きものに关心のある方ならどなたでも



注意 各団体とも、様々な状況により、下記の予定も当日でも変更になることがあります。詳しくは各団体にお問い合わせください。

日本野鳥の会 福岡支部 主催 ※一般参加費：300円（中学生以下無料）問合せ先090-8220-6160（田村耕作）

2月15日（日）3月15日（日） 天拝山探鳥会（筑紫野市） 時 間：9:00～12:00 集 合：天拝山歴史自然公園	2月22日（日）3月22日（日） 久末ダム探鳥会（福津市） 時 間 9:00～12:00 集 合：久末ダム多目的広場横 駐車場（管理事務所下）	3月1日（日） 今津探鳥会（福岡市西区） 時 間：9:00～12:00 集 合：玄洋高校西側道路
2月14日（土）3月14日（土） 大濠公園（福岡市） 時 間：9:00～12:00 集 合：ボート乗り場前	3月8日（日） 和白海岸探鳥会（福岡市東区） 時 間：9:00～12:00 集 合：JR 和白駅前の公園	3月3日（火） 県営春日公園（春日市） 時 間：10:00～12:00 集 合：音楽堂ステージ側（第5P）



福岡植物友の会

詳細はお問合せください。
中小路 香 (092-864-7585)
2月15日（日）博多の森
参加は有料 要予約

久留米の自然を守る会

2026年2月14日（土）
総 会：13:30～
講演会：14:00～16:00
「環境と昆虫」野田亮氏
地形による樹木の成長や気象災害、
森林害虫、キノコなどを研究
昆虫採集歴は60年越え（主に甲虫）
場 所 くるめウス会議室
問合せ：0942-43-7959（河内俊英）

日本野鳥の会 筑後支部

2月22日（日）
久留米城址（久留米市）
時 間：9:00～12:00
集 合：山先の河川敷駐車場
問合せ：090-4357-3043（溝田泰博）



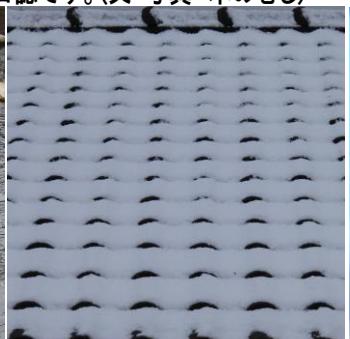
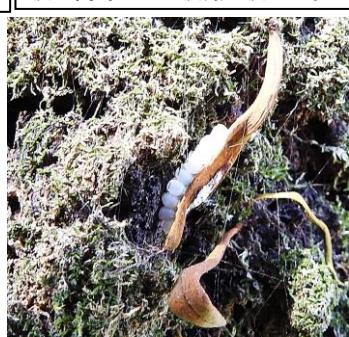
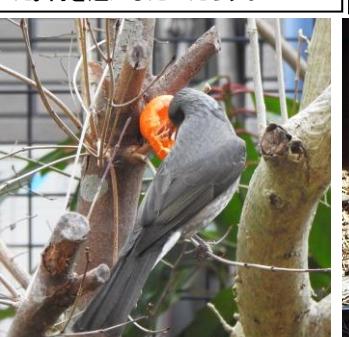
和白干潟を守る会

2月28日（土）
定例会議
時 間：12:00～14:00
集 合：和白干潟を守る会事務所
問合せ：092-606-0012（山本廣子）

2月28日（土）
クリーン作戦 と自然観察会
時 間：15:00～17:00
集 合：海の広場 駐車場なし
長靴・軍手があると便利
問合せ：090-1346-0460（田辺）

2026年1月
私のデジカメ日誌より
本のむし

1月1日(旧暦11月13日)～1月31日(旧暦12月13日)までの
デジカメ日誌です。(文・写真 本のむし)

			
1/1(旧 11/13)福岡市春吉 薬院新川の初ガモは、オカヨシガモ♂。地味に見えるが、粹な美しさ。深川芸者みたい? 知らんけど。	1/1(旧 11/13)筑紫野市二日市 駅近くの鷺田川では、マガモとコガモが初ガモだった。この辺り上流の高野川地下流路の流出口。	1/2(旧 11/14)筑紫野市天拝坂 今年の初雪。昨年より少し浅い。今年は寒いというが、咳と鼻水がよく出る。年を取ったという事か。	1/7(旧 11/19)筑前町松延 サクラの冬芽と葉痕。「世の中、安穏なれ~」。真ん中が葉芽で両側は花芽でしょうか?
			1/7(旧 11/19)筑前町松延・安の里 わらかがし山犬である。※『豊前誌』に、「犬が岳は豺(山犬)、狼、猪、鹿多く住めり」とあって山犬と狼は別種らしい。豺(さい)は中国ではドール(アカオオカミ)をいうらしい。ニホンオオカミとは別か?
1/7(旧 11/19)筑前町松延 冬眠中であろうか。樹幹の苔の生えた割れ目にカメムシ。南方種のツヤアオカメムシのようだ。	1/7(旧 11/19)筑前町松延 枯れたノキシノブに卵がびっしり。カメムシだろうか。よく見ると殻の蓋が空いて幼虫はいなかった。		
			1/16(旧 11/28)筑紫野市天拝坂 正面に四王寺山があるのだが、濃霧で地峡帯は覆われた。放射冷却による放射霧と黄砂であった。この日交通は大混乱した。
1/7(旧 11/19)筑前町三並 昔は大根を干して漬けた沢庵をよく食べた。今は塩分断ちでほとんど食べない。懐かしい大根干し。	1/7(旧 11/19)筑前町三並 奥の林縁から道路に鳥が降りた。餌をとった風でもなくノスリが居た。何を逃がしたのだろう?	1/7(旧 11/19)筑前町松延 右はダイサギだが、左は少し小さい。翼の先が黒い。一瞬目の先は白く見えたのでヘラサギ若か?	
			
1/17(旧 11/29)筑紫野市天拝坂 ジョウビタキのメス。しばらく庭木の枝を突いたりしてついといなくなった。	1/23(旧 12/5)筑紫野市天拝坂 今冬はメジロが来ない。給餌のミカンにヒヨドリだけ。庭木を切りすぎたか。年末に混軍が一度だけ。	1/26(旧 12/8)福岡市中央区大濠公園 オオバンの三本の趾(あしゆび)から葉の様に弁膜が広がっているが、カメの甲羅みたい。	1/26(旧 12/8)福岡市中央区大濠公園 ダイサギの飾り羽が美しい。寒波の最中だが繁殖期を感じているのかな。

※ 天本孝志「九州の山と伝説」犬が岳を参照

春日公園自然観察会 令和8年1月17日（土）【参加者】6人【担当】、田村耕作

観察は、自然あそび館～芝生広場・調整池を巡り～噴水の広場を経て自然あそび館にもどった。

観察内容 晴れ、8℃で開始。終了時は10℃でした。暖かさを感じた冬の日でした。

いろいろな生きものを観察した中で、主な種類を示します。

植物 スダジイ（シイノキ）、イスノキと虫こぶ、モミジバフウ、梅、クスノキ、ケヤキ、サルスベリ
アキニレ、ハゼノキ、ユズリハ

蜘蛛類 ワカバグモ（落ちたケヤキの葉の裏で見かけた）

野鳥 カワウ、スズメ、メジロ、ヤマガラ、ウグイス、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバト、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、カワラヒワ、ダイサギ、シロハラ、マガモ、アヒル、カワラバト。

感想（参加者、その場の声）

・イスノキ（瓢樹 ひよんのき）の虫こぶを、初めて観察した。

葉につく小型の大豆ぐらいの虫こぶ：イスノハタマフシ、枝につくイチジク状の虫こぶ：イスノナガタマフシ（別名 イスノイチジクフシ）などがある。いずれもアブラムシ類に起因する。

・モミジバフウ（アメリカフウ）の小さな種を確認できた。時間をかけてようやく見つけることがうれしかった。その種は小さな羽をつけていた。

・ケヤキの種は、意識してみたことがなかった。枝先に種をつけた状態で観察した。ケヤキは、枝先と種と一緒に落ちる。落枝と表現される。

・サルスベリ（百日紅）の種の観察では、小さな種の周りに羽のような翼があり、風により遠くへ行くこと理解できました。上手い仕組みに感心しました。

観察会開始

イスノキの虫こぶ

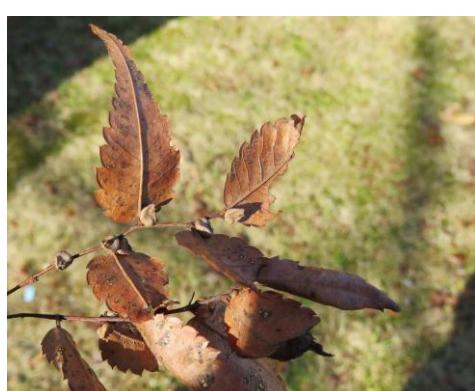
落ちていた虫こぶ



モミジバフウの種を見つけた

ケヤキの落枝と種

見かけたワカバグモ



撮影：田村耕作
以上

お知らせ：3月の春日公園自然観察会は、会場の都合により、3月28日（第四土曜日）を予定しています。

会員からの投稿（1） 岩井結友美

「ひと粒の物語——種が教えてくれた、命の繋がり——」

1月17日 春日公園・自然観察会報告 岩井 結友美

✿ 冬の陽だまりに、春がほころぶ

1月17日、寒中とは思えないほど穏やかな日差しが降り注ぐ中、春日公園での観察会が開催されました池のほとりでは、梅のつぼみがふっくらと膨らみ、いくつかの白い花が「いち早く春を伝

えたい」とばかりにはこんでいました。キラキラと光る水面に佇むダイサギの真っ白な姿と相まって、そこには静かですが確かな生命の息吹がありました。

森のドラマ

森の入り口にあるイスノキを見上げると、たくさんの「虫こぶ」がついています。これは特定の虫たちが作った大切なお家です。「以前、ここをコゲラがコンコンとつづいて中の虫を食べていたよ」というお話を聞き、参加者の皆さんと想像を膨らませました。「虫こぶ図鑑」があるほど、木の種類ごとに住む虫が違うというミステリー。冬の森は、一見静かに見えても、命のやり取りが分かれられる豊かな場所なのだと気づかされます。見落としてしまいそうな小さな場所にも、それぞれに「森のドラマ」が隠れているのですね。



モミジバフウの種、その壮大な旅路

足元に転がるモミジバフウのトゲトゲの実。振ってもなかなか種が出てこないのですが、青い実からは緩衝材のような粒と一緒に、プロペラのような種が飛び出してきました。

「種は何のためにあるのだろう？」

そんな問い合わせに心に浮かびます。当たり前のように芽を出し、花を咲かせ、実になりまた種になる。しかしその一粒には、想像もつかないドラマがあります。風に舞い、鳥に託し、時には土の中で数年も眠りながら「その時」を待つ。親木から遠く離れた場所で芽吹くのは、鳥が運んだ「お弁当(肥料)」や、大木から降り注ぐ「栄養スープ(樹幹流)」といった、自然界のサポートがあるから。

命は、たった一つの物語

種は、自分たちの存続のためだけでなく、冬を越す動物たちの糧にもなります。鳥、風、雨、そして大木。気の遠くなるような昔から続く「命のバトン」が、今の森を創っています。

自然の不思議に出会うたび、私はこう感じます。種が芽吹くことも、人間が生まれてくることも、等しく尊い奇跡なのだと。何万、何億という繋がりの中で、今ここに私たちがいる。

人間も同じ。「ある種の物語」である。

一粒の種に秘められたドラマに想いを馳せるとき、私たちの日常もまた、かけがえのない物語の1ページであることを教わった冬の一日でした。

会員からの投稿 (2) 渋田和美

毎年恒例の初日の出

曇っていて見えないかなと思いましたが、なんとか見ることができました。
12/31に海岸で結びの夕陽、年始に初日の出が見れる環境に幸せを感じてます。

久しぶりに年始から鳥見をしました。

昨年受けた白内障の手術のおかげで全く見えなくなっていた世界が見え始め、久しぶりに自然を満喫している日々です。

やはり自然豊かな地域にいると日々四季を感じることができます。

大寒の時はほんとに寒かったです！

福津市津屋崎にて iPhone で撮影(kazumi shibuta)



編集部より、投稿を楽しみにしています。



しばらく見かけなかったカワセミ、樋井川で見かけてほっとしました。

会員からの投稿（3）橋川夫妻の我が家家の自然観察日記

一年で一番寒い時期の花芽の写真です。

ツクシシャクナゲ、ハヤトミツバツツジ及びヤブツバキは固い芽鱗に覆われています。

ゴモジュ、マンサク及びリュウキュウアセビは寒さに耐えて蕾の形で冬を越します。

開花が待ち遠しいですね。黄色の花弁が見えているマンサクがまず開花し、その後冬芽が膨らみかけているミヤマウグイスカグラが咲くでしょう。

写真1 ツクシシャクナゲ（葉裏に褐色の綿毛が密生しているのが特徴 1月21日）

写真2 ハヤトミツバツツジ（花芽は他のミツバツツジの仲間よりずっと大きく、一つの花芽に多くて4つの蕾 1月21日）

写真3 ヤブツバキ（1月5日）

写真4 ミヤマウグイスカグラ（葉芽と花芽が一緒になった混芽が少し膨らみかけている 1月21日）

写真5 ケクロモジ（花芽から数個の花を咲かせます 1月15日）

写真6 ゴモジュ（植物体はゴマギと同じ匂いがします 1月21日）

写真7 マンサク（まもなく開花 1月21日）

写真8 リュウキュウアセビ（葉はほとんど全縁なのがアセビとの区別点 1月21日）

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



会員からの投稿 (4) 秋山芽生子 2026年1月の活動から

博多湾の東部を中心に活動中です。皆さん、博多湾でたくさんの生きものと触れ合いませんか。

日の出 2026年1/1

1/3 の美しい満月



流木の枝で休むミサゴ♀かな、そばにミヤコドリやスズガモ マツヨイグサの花とキリギリスの仲間 (2026年1月)



木の実のようなものを加えた

鶲 (カササギ)



団子状態の雀の群れ (1/14)

波乗り得意なクロガモ (1/22)



会員からの投稿 (5) 志賀壯史

1月30日、那珂川沿いを歩いていて紅梅が咲いているのに気付きました。真上を見上げてパチリ。

寒すぎたからか香りはあまり感じられませんでしたが、春が始まっていますね！



会員からの投稿 (6) 田字草

長年生きものを観察していく、私の季節感が変わっていくと感じています。

ホトケノザは、春の印象が強かったのが、今では、1年を通して花を見かけます。

ホトケノザ (撮影: 1/15)

モンシロチョウ幼虫 (撮影: 1/10) スミレの仲間 (撮影: 1/26)



モンシロチョウの幼虫を見かけたのは、1月のはじめでした。このスミレの花は、見かけたのは1月下旬ですが、1年中見かけます。生きものの季節感は、どんどん変わっていくようです。

会費振込について

会計年度は6月から翌年5月末までです。会員の皆様、2025年度会費を、各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。

年会費: 2000円 郵便振替口座: 福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783

定例会

次回の定例会は、令和8年3月13日(金)午後2時より事務局で行います。令和8年3月号の原稿は、3/10(火)までに届くようにお願いします。なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

編集後記 2026年1月の定例発送会は、藤川渡と田村耕作が、それぞれの自宅で作業。

続いていると見えてきた移動する鳥の動き。

赤い色の足輪をつけられたシロチドリ、もう一方の足にも灰色の足輪が見えた。1/30 能古島の海岸で見かけた時に撮影した。

この個体、「2023年6月23日に、千葉県山武郡九十九里町で

「雌のシロチドリの第一回夏羽？」に、環境省の金属足環

(03E-45825) とカラーリング赤90を装着し、標識放鳥した個体でした。その後、能古島の海岸で2023年10/24、2025年10/28、11/25、2026年1/30と見かけました。場所は、能古島の同じ海岸です。この場所がお気に入りのようです。次回はいつ頃出えるのかな。



シロチドリ 1/30 能古島海岸にて
撮影: 田字草